名古屋市立大学
SDGs活動レポート
（2022年度版）

NCUサステナビリティ・ワークショップ2022を開催

活動の概要	2022年11月３日にNCUサステナビリティ・ワークショップ2022「食から考える持続可能な都市 名古屋」（名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曽我幸代研究室主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・名古屋市立大学SDGsセンター後援）を開催しました。食は、私たちの生活に欠かすことができません。昨年度、テーマに掲げた防災をはじめ、SDGsのゴールにもある貧困や飢餓、健康、エネルギー、気候変動、生物多様性にも深く関わっています。また、その生産・消費・廃棄に目をむければ、経済や産業構造にも関連することは想像に難くありません。さらにそれには、各地域の文化が反映されています。たとえば、国際理解教育において、食は３F（Food, Festival, Fashion）のひとつとして、文化交流に活用され、多文化共生においては重要な役割を担っています。 しかしながら名古屋という都市社会において、生産活動にどう関わっているのか、消費・廃棄活動をサステナビリティの視点から考えられているのか、社会的公正に配慮しているのかと問われれば、多くの人は答えにつまるのではないでしょうか。実際、私たちの食はグローバルにもまたローカルにも関連し、さまざまな要因でその循環やつながりが止まることもあり得ます。サステナビリティの視点から食の循環やつながりを改めて問い返し、生活者としてどのような行動をとれば、持続可能な食のあり様につながるのかを考える機会として、本ワークショップは開催されました。 本ワークショップでは、食とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考えました。子ども・若者の視点から、何を問題としてあげ、それらにどのように取り組むことが求められるのかを考え、発表しました。その上で、SDGsのアイコンを街中でよく見掛けるようになった昨今のSDGs未来都市としての名古屋のあり様を考え、参加者全員で自らの足元から考えました。 【開催日時・場所】 2022年11月３日　午後1時半から3時半まで 名古屋市立大学滝子(山の畑)キャンパス１号館２階201教室他 【スケジュール】 午後1時30分から午後1時40分　開会の挨拶・趣旨説明 午後1時40分から午後1時45分　ワークショップの説明・各会場へ移動 午後1時45分から午後2時35分　高校生・大学生協働ワークショップ 午後2時40分から午後3時20分　全体会 午後3時20分から午後3時30分　閉会の挨拶（SDGsセンター長　薬学研究科教授 林秀敏） 【参加校・ゼミ】 （高校生） 名古屋市立菊里高等学校 名古屋市立北高等学校 名古屋市立工芸高等学校 名古屋市立名東高等学校 （大学生） 名古屋市立大学看護学部地域保健看護学ゼミ 名古屋市立大学高等教育院サロンガクラス（AE: Raise Health/Environmental Awareness） 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科椎名ゼミ 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曽我ゼミ
参加者の声	【高校生】年齢（高校と大学）の壁、そして国の壁を越えて、自分一人では思いつかないような考えを知ることができました。短い時間の中で濃い内容を扱えたが、欲を言えばもう少しグループワークの時間が欲しかったです。今回、どの班からも「地産地消」というキーワードが出てきて、皆が共通して考えている問題だと実感しました。また、「食」というテーマの元で話し合われた今日ですが、これはSDGsの様々な課題に関係していること、そして世界中に注目されていて人間社会という大きなスケールで考えさせられるテーマであることが分かりました。（＝食一つとっていろんな事を考えられる。SDGsに関して視野が広がる。）このような貴重な機会を設けて頂き大変嬉しかったです。ありがとうございました。早速、今日家に帰ってから家族に共有し、学校でも発表できるので積極的に得たものを外へと広げていこうと思います。 【高校生】高校の中では聞けないようなお話がたくさん聞くことができたし、食についての知識も深まりました。また今回の大学生の方や初対面の方とグループ活動していくなかで自分にしゃべる力だったり積極性だったりがあったらもっといろいろな人と交流できたのになとも思いました。 【大学生】さまざまな分野の視点から食の問題や解決策について考えることができた。名古屋市立の高

	校の生徒さんとも交流することができ、高校生が地産地消や栄養不足の問題に着目した活動に積極的に取り組んでいることを知った。「持続可能な都市名古屋」になるためには、人々が地域の特色やSDGsへの取り組みに目を向け、問題意識を持たなければならないと感じた。「食」という我々の生活に欠かせないことから問題を考えていくことで、一人ひとりが身近にあふれている改善点を見つけやすいと思った。 【大学生】「食」というテーマひとつで健康について、多文化について、コンポストについて、伝統野菜についてなどたくさんのテーマに触れられた点がとてもおもしろかったです。一件共通点の見えないたくさんのテーマでも、「たしかにつながるかも!!」「これも同じだ!」とあとから見えてくる共通のポイントがあったこともみんなで楽しむことができました。ふだん触れることのない分野やフレッシュな高校生の取り組みに触れられる良い機会でした。
活動の時期	2022年11月

USM（マレーシア科学大学）研修報告

活動の概要	USM短期研修は「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」の一貫です。同プログラムは、すべての研究科のあらゆる研究分野の博士後期課程・博士課程学生を対象に選抜を行い、経済的な支援を行うとともに、学生個々の着実・堅実な研究力に上乗せする形で「プレゼン力」「交渉力」「合意形成力」「行動力」というスキルセットを獲得させること（エンパワメント）を目的としています。今年度より始まった本研修では、現在まだ顕在化していない問題も含めた、都市が抱えるさまざまな社会課題を通じてそれぞれの研究課題を俯瞰的にとらえる能力を鍛え、幅広い視野と情報発信力・交渉力を涵養することで、個々人のキャリア開発につなげるとともに、未来都市共創に資する新たな博士人材を創造することを目的としています。 参加したのは、医学研究科から上木あかねさん、薬学研究科から藤田みのりさんの2名で、人間文化研究科の曽我幸代准教授と林敏博寄附講座准教授が引率しました。参加者は、事前にSDGsを学ぶ事前研修を受け、持続可能な社会づくりとは何かを考える機会をもったうえで、2022年9月12日から19日にかけて、マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に赴き、約１週間の研修を受けました。この実施にあたっては、USMのJCC（Japan Culture Centre）の協力を受けています。 USMでは、マレーシアが抱える文化・医療・難民・貧困・飢餓等の社会課題について、社会学部や生物学部の教授陣が講義をしてくださったり、難民が通う学校でのボランティア活動を行ったり、大学内にあるイスラム開発管理センター、麻薬センターや海洋センターを視察して、どのような問題を扱い、研究しているのかの概要説明を伺ったりしました。いくつかの講義や視察、市内のフィールドワークを経て、参加者は自らの専門知を生かして、最終プレゼンテーションを行いました。 本研修の詳細については、別添の「USM研修レポート」をご確認ください。 【参加した学生の感想（一部抜粋）】 研修では、マレーシアの歴史や貧困に関する講義の聴講、難民学校でのボランティア活動、研究施設訪問（ハラル、薬学、海洋学）などを行いました。今回の研修を通じて、人種や宗教が違っていても争うことなくお互いを尊重しあうマレーシアの多文化共生について理解を深めました。最終日のプレゼンテーションは、日本が今後多民族・多宗教国家になった場合、管理栄養士として私にできることは何かについて考える良い機会となりました。
活動の時期	2022年9月

USM研修レポート （PDF ファイル 0.52MB）

難民学校の子どもたち

Centre for Drug Researchのラボ見学

センター長、事務官、バディとのお別れ会

SDGs将来世代創造フォーラム2022に参加

活動の概要	本学は、2022年8月24日に吹上ホールで開催された「SDGs将来世代創造フォーラム2022」（アサヒ飲料中部北陸支社主催）に参加しました。当日は、「健康」「環境」「地域共創」をテーマに、産学官から約50のブースが出展されました。 本学のブースには、人文社会学部曽我准教授と曽我ゼミの学生３名が参加し、「SDGs達成に向けて自分ができること」を考えるワークショップを行いました。 また、本学のSDGsに関する様々な活動について、チラシやパネル等で紹介しました。 【ワークショップ参加者の声】 ・できるだけ自動車ではなく公共交通機関を使う ・異常気象、気候変動を防ぐために、エアコンと扇風機を合わせて使う ・自然災害に備え、防災に取り組む ・海洋プラスチックごみを減らすために、ビニール袋をもらわずにエコバッグをつかう ・貧困や飢餓に苦しむ人たちのためにフードドライブやフェアトレードなどに参加し、問題の解決に寄与する
活動の時期	2022年8月
関連URL	アサヒ飲料中部北陸支社 「SDGs将来世代創造フォーラム2022」